

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2394500041		
法人名	社会福祉法人 かなえ福祉会		
事業所名	グループホーム すないの家尾張旭(やぐるま草)		
所在地	尾張旭市柏井町弥生256番1		
自己評価作成日	令和2年12月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

やぐるま草では利用者と家庭的な雰囲気を作っていく事を目標に日々の暮らしの中でおかずの盛り付けや炊飯・洗濯物の片づけ等の家事仕事を始め、健康維持の為の毎日の体操を実施したり、レクリエーションの幅も広げていき他者とのコミュニケーションを図り充実した生活を送っていただいています。

また、内科・歯科の往診を定期的に行い、健康管理に気を配っています。

特養が併設されている為、看護師との連携も取り、利用者一人ひとりがその人らしく生活していける様に利用者職員という関係だけでなく、馴染みの関係になれるような援助を心掛けています。

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2394500041-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2394500041-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
訪問調査日	令和3年1月19日

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ※コロナ禍の為、対応不可	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ※コロナ禍の為、対応不可	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に確認できるように各社員証に理念を記述してあるものを印刷し、持ち歩けるようにしている。 また、事務所にも貼付し、確認できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	前年度までは保育園児との交流をしており、施設に訪ねていただいたり、保育園の運動会にも参加させていただいていた。 また、ボランティアの方を招いたりして定期的に利用者様のお話を聴いていただいていた。 今年度はコロナ禍の影響で実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	前年度までは施設では気軽に地域の方々の相談を365日受けられるように体制を整えていた。 また運営推進会議で地域の方に対しお話をさせていただいていた。 今年度はコロナ禍の影響で実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて取り組み内容を口頭でお伝えしている他、写真を貼付して取り組み風景をお見せしている。(令和2年3月のみ) 地域の方のいただいた意見や要望に関しては参考にさせていただき、今後のサービス向上に努めている。 今年度はコロナ禍の影響で1度しか行えていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	制度変更の際に出向いたり、質問の際に答えていただくなどの関係を築いている。 今年度はコロナ禍の影響で1度しか行えていないが、運営推進会議にも参加していただき、情報交換・情報共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設の建物上、フロア玄関が施錠扉になってはいるが、利用者の訴えがある場合は開錠できるように対応している。 また、利用者への声掛けを始め、身体援助・支援を行う際も身体拘束への意識を職員一人一人が持つようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々、職員各々が利用者の状態観察をする事で情報を共有し、必要であれば他部署とも話し合いを設けている。 定期的に勉強会を開催する事により、一段と意識づけができると思うが、中々継続的に行えていないのが課題ではある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の中で以前制度を利用されていた方がいた為、制度について学ぶ機会があったが、現在は不在な為、そのような機会が減少してきている。 今一度管理者始め、職員 各々が理解する必要性がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者・家族の意向を第一に考えた上での話し合いをしている。 また、リスクマネジメントについても説明をし了承いただいたり、改定等があれば随時書面にて説明・了承をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者に関しては日常生活の中で要望・困った事がないか随時確認している。 家族に関してはコロナ禍の影響で面会が満足にできていない状況の為、日々の状況を電話連絡させていただいたり、要望等があれば随時受付できるような環境作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はユニットに出向く時間を設け、職員の意見や提案を聞いている。 また、施設代表者にも報告・相談し、助言をいただきその意見や提案に対しての解答をするように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回自己評価表の記入、施設代表者の面談を行う事により、職員が抱えている課題の状況把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	前年度までは外部に研修を依頼したり、社外研修にも参加していたが、コロナ禍の影響で今年度はあまり実施できていない。 その為、社内研修に力を入れていく必要があるという課題を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	前年度までは地域のケアマネや家族との交流を図れるようにしたり、見学等の対応も随時行っていた。 今年はコロナ禍の影響で満足には実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所したばかりの利用者には特に気を配り、ストレスを溜めないよう傾聴に重きを置いている。また、日々コミュニケーションを取る事を大切に、言いたい事が言えるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所時のアセスメントで家族からの要望をお聞きし、利用者が不安なく生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族とのコミュニケーションを図る事でその話し合いの中で何が必要であるかを見極めて信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者を一方の立場におかないよう暮らしを共にする者同士の関係を重視している。また、お互いに「ありがとう」とお礼を言い合える、共に支えあえる暮らしを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍の影響で面会する事が困難である事から、電話等で近況の報告をし、情報を共有したり、今後の方針などを共に考える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の影響で直接会う事が困難になってきているが、リモートでの面会等で仲の良い方とお話をしていただけるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の性格や相性を見極め、時には職員が間に入る等していい関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	過去に入所していた方の家族などから相談を受けた場合には施設として助言をする体制は整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者がどのような暮らしを希望しているかを会話などの中から探り、利用者の望む生活に近づけるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談で困り事や希望など、これまでの生活について本人や家族から聞き、どのように暮らしてきたのかを知るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録等の記録物に個々の生活の記録を残し、職員間で情報を共有して利用者のペースの理解に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月一回モニタリングを行っている。 担当制をとっていないので、色々な職員が利用者に関わり、色々な方向からの意見を介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気付いた事や利用者の変化なども介護計画等の記録物に記入して活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者個人個人から出る様々なニーズに対して出来る限りのサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在、コロナ禍で対応ができていない状況だが、理美容・ボランティア・地域の保育園とも交流の場を設けていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前に通われていたかかりつけ医を希望される方に関しては継続して通えるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の関わりの中での気づきや変化を併設特養の看護師に報告し、必要であれば受診・救急搬送に繋げる様に連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には家族とこまめに連絡を取り合い、退院後スムーズにグループホームで生活ができるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	要介護状態が上がった際や入院してADLが低下した際は併設している特養へという相談も受ける事がある。また体調の変化があった場合には都度家族に連絡を取り話し合う機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急対応の講習(AEDの使い方等や実践)を定期的に行ったり、他の研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	救急対応同様、定期的に防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護される側である事を感じさせない支援を目標にしている。 利用者様との信頼関係と年長者に対する敬意を常に念頭に置いて声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人との会話の中で希望や要望を聞きだし、意思を尊重する様に努めている。 また聞き出しに関しても自己決定しやすい様に選択肢を与える様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の生活の流れの中でも利用者自身がしたい事ややりたい事が実現できるように普段のコミュニケーションを大切に支援している。 もちろん拒まれる事もある為、その場合は時間を置いたり、職員を替えたりして臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服を選ぶ際は本人に確認を取りながら一緒に選んでいただいている。 また、月に1回、外部から理美容が来る為、希望に合わせて好きな髪型にいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日、夕食の用意から片づけを一緒に行う事により、五感を刺激している。 また、アンケートを取って食べたいものを提供できるようにレクリエーションの企画・実施をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士確認のもと、栄養バランスの良い食事メニューを考え、提供している。 万が一食事・水分量が低下している場合には家族と相談し、嗜好品を持参していただくよう協力を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアに努めている。拒否のある方は本人のペースに合わせて声掛けを工夫している。 また、提携している歯科往診があり、日ごろの口腔内のチェックや治療などの対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄ペースを掴む為、定期的トイレにお誘いし、失敗を少なくするように取り組んでいると同時に職員間でも情報を共有するように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の摂取量の把握やヨーグルト・ヤクルト等の嗜好品、日々のリハビリ体操等で便秘予防に努めている。 その上で併設特養看護師とも相談し、必要であれば便秘薬を用いて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々のタイミングで午前中に入浴される方や同性介助を希望される方もいる為、臨機応変に対応している。 また、入浴剤を入れたり、話をしながら対応する事で気分転換に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のその日の状態に合わせて休んでいただいている。眠れない時は無理に促すわけでもなく、お茶を飲んでいただいたり、テレビを観ていただいたりとその人にあったペースで支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	日々利用者の様子を観察し、変わりがある際は併設特養看護師に報告をしている。 介護職員室に利用者の薬情がある為、職員誰でも確認できる体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	空いている時間を活用し、様々なレクリエーション、得意分野を活かした作業、くつろぎの時間を作りコミュニケーションを図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の影響で外出ができていない現状だが、ベランダの花に水を与えに外気を感じていただいたりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己にて管理したいと希望がある方に関しては本人・家族と相談しそのように対応している。 移動パン屋が2回/月に来訪する為、外出ができなくても買い物ができる環境作りに努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族とも相談しながら自由にやり取りできる環境づくりに努めている。 手紙を書かれたら投函する支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニット・フロアや共用のトイレなど清潔を心掛けている。 また、季節が感じられる展示物も利用者と一緒に作っていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	他者との交流を増やす為、自由に席を設けている。仲が良い方々はもちろんですが、一人になりたい方も中にはみえる為、その方にも一人になれる時間を大切にいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの生活を継続していただけるように愛用物や家具・鞆等、ご自身のと分かる物を持参していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレからの転落がないよう、手すり・ひじ掛けがあり、廊下を歩く際にも手すりが設置してある。 隣ユニットとは自由に行き来する事ができ、お互いのユニットの職員全員で利用者全員を見守れる環境がある。		